

INACHO ROTARY WEEKLY NEWS

事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：熊谷 健 副会長：井上 修 幹事：小椋文成 公共イメージ向上委員長：太田明良



2024-2025 国際ロータリーのテーマ
ロータリーのマジック

2024-2025 RI会長
ステファニー A.
アーチック
＜米国ペンシルバニア州＞



第1726回 新年初例会・オープン例会 令和7年1月14日(火)

■ 点 鐘 18:30

■ ソング 君が代・奉仕の理想・四つのテスト 加藤篤ソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介

- ・六波羅 誠 様
- ・西村 渉 様
- ・支援留学生 エムディ・バディウル アラム 様
- ・米山奨学生 アミン, エムディ アル 様



■ 会長談話 熊谷健会長



明けましておめでとうございます。

皆さん、正月はどのように送られましたでしょうか？インフルエンザやコロナが蔓延していると聞いています。お体に気を付けてお過ごしください。

今年は巳年。蛇は成長する過程で何度も皮を脱ぎ捨て、新しい皮へ生まれ変わることから、再生と変革を象徴する生き物とされています。そのことから巳年は、古い価値観や習慣を手放し、新しい自分へと生まれ変わるチャンスを与えてくれる年とも言われています。今年が皆さんにとって、素晴らしい「再生と変革」の年であることを祈念申し上げます。

話は変わりますが、昨年午後9時19分頃、宮崎県で震度5弱の地震が発生しました。南海トラフ地震の予兆ではないかということで、気象庁は臨時情報を出して検討会を開きましたが、直接の関連性は明白ではないとして調査終了となりました。

昨年1月1日には「能登半島地震」が発生しています。被災された方々は、9月の能登豪雨も相まって復興が遅々として進まず、不安な日々を過ごしているという話を聞きます。池上さんが定期的にボランティアで行っていると伺っていますので、また詳しい話をしていただきたいと思います。心が痛みます。

また、いつどこでこのような震災が発生してもおかしくないという状況ですので、私たちも常に防災意識をもって災害に備えなければなりません。

今年は、阪神淡路大震災から30年という節目の年を迎えます。1995年1月17日に、兵庫県の淡路島北

部沖の淡路海峡を震源として発生したマグニチュード 7.3 の直下型地震は、6434 人という犠牲者を生み、神戸という近代都市の中心部での災害として、戦後最大級の大惨事となりました。

この震災を教訓に、防災という概念が定着し、罹災都市や激甚災害の法整備がなされ、全国各地で防災マップの整備や防災に関する住民意識の高揚が図られました。また、ボランティアという用語が多く使われ出したのもこの時からであったと記憶しています。

当時、30 代であった私も「司法書士の法律相談ボランティア」として神戸の地を訪れ、衝撃を受けたことを今でも鮮明に覚えています。特に長田区は、震災で起こった火災により、駅前一带が焼け野原となっていました。その光景は、今でも忘れることができません。

相談ボランティアとして神戸に行ったことは、その後の私の司法書士人生に大きな影響を与えました。被災地に実際に行ったこと、被災された方々の相談を実際に受けたことは、私に「人のためになることの意味」を考えさせ、その後 30 年の司法書士業務の礎になっています。

1995 年 1 月 17 日の夜は、満月であったと聞いています。被災された方々は避難所で月を見るたびに、また地震が来るのではないかと不安を抱える夜を送ったそうです。

そのような人たちに対して、「何かできることをしてあげたい。」「その人たちの痛みや悲しみを和らげてあげたい。」と思うことは、人間としての自然な気持ちです。たとえその場に行かれなくとも、想いを馳せるということは大切なことです。

正月早々、しみりした話になってしまいましたが、今日は新年初の夜間例会、また、オープン例会も兼ねています。

楽しく新年を祝いたいと思います。よろしくお願いいたします。

■ オープン例会挨拶 橋爪麻人会員増強・プログラム委員長



初めてのオープン例会となりますが、皆さんへの周知が不十分でございました。これから回を重ねて作り上げていきますのでご勘弁ください。

本日ご参加いただきましたお二方を紹介いたします。

六波羅誠さん。六波羅板金工業の専務で、伊那まち BASE の理事も務めております。

西村渉さん。プロス広栄という印刷会社ですが、障がい者の就労支援もやっておられまして、お蕎麦屋に農業、林業にも携わっておられます。

積極的に奉仕をされているお二人を是非ロータリーにと言う訳でございますが、本日は新年初例会なので単純に一緒に新年を祝えればと思います。

■ 慶 祝

1 月誕生祝い

・矢野直樹会員 ・熊谷健会員 ・加藤篤会員 ・市川修次会員



■ 米山奨学金の支給

・米山奨学生アミンさんへ熊谷会長より、ロータリー米山記念奨学会「1 月分奨学金」が手渡されました。



■ 委員会報告

・1月6日（月）戦略計画委員会の報告 小椋文成幹事



1月6日（月）に戦略計画委員会が事務局にて開催されました。参加者は市川修次直前会長・熊谷会長・井上エレクト・加藤副幹事・宮下デジグネート・原一馬幹事予定者の7名でした。

主な内容としては、地区からきている3か年計画についての確認を行い、今後委員会において具体的な数値目標を策定していく確認を行い、次年度地区補助金事業について内容や申請にあたってのスケジュールの確認を行いました。また、クラブ細則についても今後内容の検討を行いながら、現状に合った細則にしていけるようにしていくことを確認しました。

・「ロータリーの友」1月号紹介 杉本徳治会員



1月号の「ロータリーの友」はRI会長のメッセージと、特集として「いま、あらためて四つのテスト」です。今月は職業奉仕月間です。その理念の礎となっている「四つのテスト」について過去の記事から振り返り「ロータリーの友」編集担当理事本田さんが解説をしています。

ステファニー A. アーチック RI 会長のメッセージ「喜びをもたらそう」を紹介します。会長は所属するクラブ例会に出席するときはいつも、笑顔で部屋に入ります。数年前、ある会員が遅れて例会に来ました。その時、会員たちは遅れたことをとがめるのではなく、拍手で迎えました。以来、会長のクラブでは例会に来た会員を拍手で迎えるのが新たな伝統となっています。

例会や行事で、もっと皆の笑顔を引き出せるよう、何か新しいことにチャレンジしてみましょう。というメッセージです。

これを着実に実践している日本のロータリークラブが紹介されています。それは福島県福島市にあります会員数100名の福島ロータリークラブです。福島ロータリークラブは2021年以来、楽しく環境問題に取り組む活動を続けてきました。それはスポーツとごみ拾いを組み合わせた「スポ GOMI 大会 in ふくしま」です。去年は400人以上の参加者が元気にこのイベントに参加し、より良い地域社会づくりに取り組んだという内容です。

このイベントは、クラブが楽しみながら変化をもたらし、同時に世界規模の問題への認識向上を図っていく素晴らしい取り組みです。また、インクルーシブで家族向きのイベント及び全ての年齢層の人が参加でき、自身も楽しめば、そのエネルギーが他の人にも伝わります。これこそ新会員を引き付け、クラブを元気にし、会員の参加を促すカギであり、帰属意識をつちかう上で大事なことです。

私たちは共に、会員一人一人が誇りを感じられるような、参加型で楽しい、包み込むようなロータリーをつくることができます。「ロータリーのマジック」を発揮し新たな参加意欲と熱意を持ち続けていきましょう。

次に「四つのテスト」の由来について1999年10月号の「THE ROTARIAN」、2000年1月号、2003年10月号の「ロータリーの友」、からの転載記事が載っています。内容については「四つのテスト」は一つのテスト？と題して「ロータリーの友」編集担当理事本田さんよりわかり易く解説されていますので12～13ページを簡単に紹介します。

「四つのテスト」は元々一般的な人生訓を並べたものではなく、ハーバード J. テーラーさんが会社再建時に厳格に適用したビジネス上の倫理原則であったことがよく理解でき、このことから RI が、この「四つのテスト」を「行動規範」と共に職業奉仕の指針として大切にしてきました。私たちは「四つのテスト」を通じて他人を見るのではなく、自分自身の考え、意見、行動を考えるべきです。

このテストは私たちが自分自身について判断するための鏡であって、他人を判断するための窓にははいけません。「1. 真実か、どうか」「2. みんなに公平か」「3. 好意と友情を深めるか」「4. みんなのためになるか、どうか」。この「四つのテスト」は、自分自身、自分の会社、そして自分が所属するクラブの考えや活動の妥当性を判断する基準です。

わが身を振り返る鏡として使用すれば「今日の社会でも有効性を保持し、かつ実効性のあるもの」となるのではないのでしょうかという記事です。私もあらためて「四つのテスト」について考えさせられました。

次に、縦組に宮大工の小川三夫さんの「伝統技法と職業奉仕の心」と題しての講演要旨について紹介されています。栃木県矢板市の出身で高校の修学旅行で法隆寺の五重塔を見たことがきっかけとなり、卒業後、法隆寺宮大工の西岡常一の門を叩くが断られ、仏壇屋などで修業をした後に、22歳で西岡棟梁の唯一の内弟子となりました。生前西岡棟梁は小川さんについて「たった一人の弟子ではあるけれども、私の魂を受け継いでいる」と述べています。

1997年に徒弟制度を基礎とした神社建築の建設会社「株式会社鰯（いかるが）工舎」を設立し、弟子の育成とともに全国各地の寺院の改修、再建、新築等に現在も活躍されています。内容については、昔から「職人は、利口でもなれずバカでもなれず、中途半端じゃ、なおなれん」と言われ、そのぐらい厳しく難しい職業です。

最初に「工は伝授せず、見て習え」について書かれています。小川さんは毎日毎日刃物を研いで三ヶ月ぐらいたった頃、西岡常一（つねかず）棟梁が納屋（なや）に来て鉋を引いてくれました。その鉋くずを窓ガラスに貼り、同じような鉋くずになるまで研いで削り、研いで削り、20年間一緒に生活をしていましたが、手本を示してくれたのは、その鉋くず一枚でした。何も教わっていません。ここで言う工とは道具を使って物を作り、それを業とする人は技を見て習えと言う教えです。

内容は小川棟梁の技を伝え、人を育てる仕事論及び不揃いの木を組む等の事が書かれています。数百年に一度行われる法隆寺金色堂の大修理に加え、薬師寺の金堂および西塔を1300年前の様式で復元するという歴史的な大事業が昭和の時代に行われました。

最近、マネジメントにしろヒューマン・リソースにしろ、コミュニケーションにしろ、カタカナで書かれた理論が流行りですが、日本には「1000年を見据えた仕事」を実践し積み上げられてきた知恵や暗黙知という、かけがえのない無形資産があることを忘れてはならないとこの記事を読んで感じました。是非お読みください。また、著書も出版されています。

次に「につぼんふうど 北陸能登特別編」として鎌倉 RC 久保田英男さんが写真付きで能登震災の支援に繋がる思いで食材の紹介から今の様子が書かれています。現地に行くことが震災の支援に繋がると感じました。

昨日も九州地方で震度5弱の大きな地震がありました。日頃から地震への備えの再確認に加え、地震が発生したらすぐ避難できる準備をしておきましょう。

以上で2025年1月号「ロータリーの友」の紹介を終わります。

■ ニコニコボックス

- ◆熊谷健 伊那中央ロータリークラブ会員の皆様 新年おめでとうございます。
また、今日はオープン例会ということでゲストの六波羅誠様・西村渉様、ようこそお越し下さいました。ロータリーの雰囲気を感じて楽しんで下さい。また、留学生のアラム君・アミン君、今年もよろしくお願い致します。
2025年という年が、今日出席の皆様にとって素敵な年となります事を祈念致します。
- ◆小椋文成 ゲスト参加 六波羅様・西村様、ようこそお越し下さいました。楽しんで下さい。
本年初例会になります。今年もよろしくお願い致します。
- ◆伊藤かおり 新年あけましておめでとうございます。
アラムさん・アミンさん、今年もよろしくお願い致します。六波羅さん・西村さん、ようこそお越し下さいました。本日の例会、楽しんで下さい。
- ◆矢島宏 あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。楽しいロータリーにしましょう。
- ◆事務局・武井 いつもお世話になりありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

■ 出席報告

会員数44名 出席免除会員5名 長欠会員1名 本日出席率100%
前回出席率 修正なし

■ 理事会報告 小椋文成幹事

1. 次年度（2025-2026 年度）地区委員会委員の推薦について
2. 伊那西インターアクトクラブ独自研修（伊豆研修）について
3. 1 月の行事予定並びにメイクアップ扱いについて
4. その他

■ 点 鐘 19：10

■ 親睦会 進行：親睦活動・友好委員会

- ・挨拶 澁谷恵二親睦活動・友好委員長
- ・乾杯 平澤理直々前会長
- ・親睦会
- ・ソング「手に手つないで」 加藤篤ソングリーダー
- ・万歳三唱 矢野直樹会員
- ・万歳返礼 六波羅誠様・西村渉様



次回例会

1 月 21 日（火） 点鐘／12：30 場所／海老屋料理店
・クラブフォーラム「職業・社会奉仕委員会」